

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：共通教育科

資格：准教授

氏名：木村 麻衣子

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育・第二言語習得	韓国英語教育・プロトタイプ理論・言語政策・語彙習得
学位	最終学歴
文学修士	南山大学大学院人間文化研究科言語科学専攻博士後期課程単位取得 武庫川女子大学大学院 文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 英語合宿	2016年3月25日2016年3月26日	チャレンジコース学生を対象に初めての試みとして、ネイティブ講師の全面協力を得て、春期英語合宿を一泊二日で実施した。今後長期休暇中に継続して実施する予定である。
2. 夏期休暇中のメール配信課題	2014年07月～2014年09月	2014年度より開講の英語チャレンジコースの受講生14名を対象に、夏期休暇中、毎週課題をメールで配信し、受講生の英語学習時間の確保につとめた。
3. アクティブ・ラーニングの導入	2012年04月～現在	コンセンサスゲームや、パートナー探しゲームなどを、コミュニケーションをテーマとした授業に導入し、学生自ら発言し、対話を必要とする場面を多く設け、教員対受講生の双方向にとどまらず、受講生個人対受講生複数 受講生個人対受講生個人などさまざまな形で交流をはかりながらの授業展開を心がけている。
4. モチベーションを高める工夫	2010年～現在	TOEIC関連、言語表現関連クラスとともに、外的動機付けに配慮し「資格を取得する」ことを目標の一つに授業を構成。話しことば検定・TOEICその他資格に関する情報を積極的に学生に与え受験を促している。
5. 授業外学習の取り組み	2008年04月～現在	授業時間外にリスニング課題に各自で取り組めるよう、LL準備室の協力を得て、出版社から許可の取れたテキストや、その他、著作権上問題のないリスニング教材を準備し、授業との連携もはかりながら受講生の学習時間を確保するようつとめている。
6. 英語発音矯正個別指導	2007年4月～現在	英語の発音を矯正したいと希望する学生にオフィスアワー等の時間を利用して個別指導をしている。
7. スピーチ指導	2001年09月～現在	主に学内スピーチコンテストへの出場を希望する学生へのスピーチ指導を行っている。これまでに出場学生のうち1名が優勝、3名が予選を通過している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 中部地区英語教育学会三重大会実行委員	2006年04月～2007年07月	中部地区英語教育学会三重大会の事務局員として会計を担当
2. 武庫川女子大学 オープンカレッジ	1999年04月～2007年03月	武庫川女子大学オープンカレッジ外国語講座「英語再入門初級」「英語再入門中級」を担当
4 その他		
1. 映画研究部部长	2006年4月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. ハングル検定3級	2005年06月	
2. TOEIC960点	2000年07月	
3. 高等学校教諭専修免許状（英語）	1992年03月	
4. 中学校教諭専修免許状（英語）	1992年03月	
5. 高等学校教諭一種免許状（英語）	1992年03月	
6. 中学校教諭一種免許状（英語）	1992年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 神戸ポートエンジェルス	1997年4月1日～1999年3月31日	神戸国際観光協会神戸ポートエンジェルス16期生 職務内容：神戸港に入港する外国客船（エリザベス2世号など）船内イベント司会通訳及び神戸市内観光案内業務など
4 その他		
1. インターカレッジ西宮 大学共同講座	2009年3月5日	インターカレッジ西宮の「常識のうそほん」とをテーマにしたリレー講座を担当。「和製英語のうそほん」と

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
2. 神戸市立高等学校英語スピーチコンテスト審査員	2002年10月～2006年10月	題し、様々な「和製英語」の語源、使用に関わる注意点などについて講義を行った。 神戸の市立高等学校主宰の英語スピーチコンテスト予選の審査員を担当		
3. 実用英語技能検定試験二次面接委員	1996年04月～2007年04月	英検の二次面接委員を担当 担当級は準1級～3級		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. An Invitation to Critical Thinking クリティカル・シンキングのすすめ ー基礎から応用への総合英語	共	2016年03月01日	南雲堂	英語力とクリティカル・シンキングの力を同時に獲得するため様々なテーマに沿って「批判的に（正しく）思考する」トレーニングを行うことを目的に書かれた本である。木村の担当ページはpp.13-18, pp.31-36, pp.91-96. 河原俊昭・高垣俊之・斉藤早苗・Carolyn Wright・木村麻衣子
2. 小学校英語マルチTips 自信を持って授業を進めるために	共	2011年12月20日	東洋館出版社	浅間正通・荒尾浩子・梅本孝・木村麻衣子・伊東多恵・中村善雄・山下巖 小学校英語活動に世界がどう取り組んでいるのか世界10か国の状況と、学習アイデアのヒントを掲載している。英語教育のバックグラウンドが乏しい教師が圧倒的多数である実情を受け、現場教師の不安や戸惑いを和らげることを目的に編まれた書籍である。木村の担当箇所は次の通り。「すぐに役立つプラクティカルTIPS」No.6 pp.37-38, 「大韓民国」pp.163-176
3. Multicultural Japan Reading & Writing	共	2010年02月24日	南雲堂	Carolyn Wright・Colin Sloss・斉藤早苗・河原俊昭・高垣俊之・木村麻衣子 「多文化社会日本」の道しるべとなるよう、言語や文化に関する問題意識を切り口に英語総合力を養成するよう作成された大学生用英語テキスト。木村の担当箇所は次の通り。Lesson 9 pp.55-60, Lesson 11, 12 pp.67-78
4. Around the Globe 異文化理解のための総合英語	共	2010年02月18日	南雲堂	浅間正通・山下巖・Derek Eberl・荒尾浩子・梅本孝・木村麻衣子・中村善雄 異文化理解のための総合英語学習を目的に作成された。各章1国、計15カ国をピックアップし、それぞれの国の特徴を学習しながら英語力を伸ばすことを目的としている。木村の担当箇所はUnit8 'Korea-Leisure Time' pp.34-38
2 学位論文				
1. 英語における言語と性差 English Language and Sex	単	1992年3月31日	武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程 修士論文	英語における、女性・男性それぞれに使用が限定される、いわゆるタブー語を含めた、セクシスト言語全般を検証。女性解放運動以降、政治面のみならず、言語面にも、様々な変化がみられはじめた。性差別表現をなくすため、どのような工夫がなされているかについても同様に調査を行った。アメリカの言語学者らが行った実地調査を参考に、米文学で使用されている台詞、詩などをサンプルとして利用し言語使用の分析を行うとともに、英語母語話者が発話上男女の区別をどのように認識しているのかについて、アンケート調査を実施し、結果分析を行った。
3 学術論文				
1. 三重県における言語政策に関するフィールド調査	単	2015年3月31日	日本におけるマイノリティー言語に関する実態調査と言語支援開発	三重県において外国籍の住民に対し、言語的なサポートがどのような形で提供されているのか、外国籍住民の協力を得て実施したアンケート結果を交えながら報告している。
2. A Study of Topics in English Textbooks for Mutual Understanding (査読付)	共	2013年10月9日	Science & Knowledge Publishing Corporation Limited Linguistics, Culture & Education Vol. 2014 (2014) ID 1	荒尾浩子・木村麻衣子 英語教科書で取り扱われているトピックは、異文化相互理解にどのように役立つと考えられるか、またそのトピックをとりあげる理由として何が考えられるかトピックをカテゴリーに分け、質的・量的両側面から考察した。
3. Minority Languages in Multicultural Japan: Improvement of Language Assistance for Non-Japanese Residents (査読付)	共	2013年10月5日	The Applied Linguistics Association Korea 2013	斎藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子 「多言語社会としての日本の言語政策」に関わる研究発表 東京池袋、広島県尾道市・福山市、三重県津市の実情報告及び問題点と解決策への提案。pp.137-147
4. A Study of Cultural Factors in Junior High School English Textbooks Approved in Korea and Japan (査読付)	共	2011年3月31日	KOTESOL 2010	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓それぞれの中学校において採択率1・2位のテキスト(計6冊)の質的分析を行い、文化がどのように扱われているのかまた両国でその扱われ方がどのように異なるのかまた同じなのか、'Global Culture'に焦点をあて比較した。pp.125-132
5. Field Study Report: English Language Education in Korea -The Case of Tyonpyong Elementary S	単	2011年01月31日	神戸英語教育学会 vol.26	韓国釜山にある東平初等学校における英語授業の視察報告をまとめたもの。学校としてどのように英語教育に取り組んでいるか、授業で韓国人教員がどの

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
chool (査読付)				
6. アジアの子どもは英語をどう学んでいるかー英語教科書の比較からー (査読付)	共	2009年03月25日	中部地区英語教育学会 2006～2008年度課題別研究アジア英語教科書比較研究プロジェクト論文集	相川真佐夫・磯部ゆかり・江利川春雄・川畑松晴・八田玄二・樋口謙一郎・室井美稚子・木村麻衣子 中部地区英語教育学会の課題別プロジェクトとして、日本・中国・台湾・韓国・ベトナム・カンボジア・北朝鮮の中学校英語教科書をそれぞれの国担当者が独自の視点で分析したものを国別ならびに各国を横断的に比較し、2006・2007・2008の3年間学会で発表をし、最終的にその3年間の集大成としてまとめたものがこの論文集である。木村担当箇所はpp. 42-48
7. アクションリサーチーモチベーションの側面からー (査読付)	単	2009年01月31日	KELT Kobe English Language Teaching Vol.24	武庫川女子大学共通教育科目「TOEIC入門」の受講生協力のもと、アクションリサーチを行い、アクションリサーチの過程が学生のモチベーションにどの程度影響するかを柱に、事前テスト・事後テスト及び事前アンケート・事後アンケートにおける学生の進捗度等を調べた結果をまとめたもの。pp. 21-36
8. 韓国英語教育事情	単	2006年12月25日	共通教育レポート第1号	韓国英語教育について、現地小学校での授業見学を中心に。韓国人・日本人が全受験者数の9割を占めるといわれるTOEICについても韓国の様子を記載。pp. 1-8
9. ‘Application of Motivation Strategy to English Reading Education for Non-English Language Majors’ (査読付)	単	2001年03月	武庫川女子大学紀要 人文社会学編49	英語を主専攻としない学生を対象に英字新聞講読を授業内容として取り入れる場合の注意点を、モチベーションストラテジーの側面からある1クラスを取り上げ検証。pp. 41-46
10. 日本語と和製英語	単	1997年03月	人間学研究 第12号	カタカナ言葉が日常生活の中にあふれ、英語として意味をなす語と錯覚する人が多くいる。そこで、カタカナ言葉についてのアンケート調査を行い、その結果についてまず否定的な側面から、意味の取り違いについて検証し、その後肯定的な面に目を向けている。言語の使用に関して、恐怖心をおおることを目的としているのではなく、使用する言葉の意味を少しでも追求する興味をいだかせる為のものである。pp. 43-46
11. 実践的英語学習法の一考察ー英語を専攻しない学生のために	単	1996年03月	人間学研究 第11号	一般に授業で使用されているテープは、ほとんどが訓練用であるため、会話速度が不自然に遅い場合が多く見受けられる。そこで、より実践的な学習方法を提示するため、筆者がイギリスで録音したテープをもとに教材を作成した。そしてその内容を会話速度・発音方法の両面から考察し、通常は、同時通訳者養成のために用いられる、‘シャドーイング’ ‘リプロダクション’ ‘スラッシュリーディング’ などの方法をわかりやすく紹介した。pp. 57-62
12. “English Language & Sex” (査読付)	単	1993年11月	Profectus Vol.1	Robin Lakoffの分類を参考に、英語における言語と性差を考察した。Austinの作品、“エマ”から男女の会話部分を取り出し、それぞれを、Lakoffの言うところの男性語・女性語に区分した。そして、“エマ”の書かれた時代背景とも照らし合わせ、英語表現における性差と共に、女性の言語的变化についても、同様に論じた。pp. 1-12
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. シンポジウム「韓国英語教育の多角的考察と研究手法」	共	2011年12月10日	日本アジア英語学会	韓国の英語教育について討論が行われ、パネリストとして韓国英語村の実態についてプサン英語村「グローバルビレッジ」の視察内容などをもとに討議に参加した。
2. 学会発表				
1. The Study of Polysems -the case of Japanese learners of English	共	2016年7月8日	KATE International Conference 2016(Seoul, Korea)	語彙の深さよりも語彙サイズが重要視する日本人英語学習者が多義語をどのように理解し、複数の意味を習得しているのか学習者アンケートを実施し、プロタイプ理論を援用しながら多義語の複数の意味を図式化することを提案する。 木村麻衣子 荒尾浩子
2. Multicultural Japan and Easy English	共	2016年4月15日	2016 International Conference on Applied Linguistics and Language Teaching (Taipei)	三重県、広島県を中心に、在留外国人の数の推移とともに、有事の際（特に災害）の言語サポートについて「やさしい英語」「やさしい日本語」という観点からの事例紹介及び提案を行った。斎藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子(三重県担当)
3. Investigating the relationship between vocabulary size, depth and meaning developments of Japanese learners of English	共	2015年9月19日	ALAK(Applied Linguistics Association of Korea) Seoul, Korea	木村麻衣子, 荒尾浩子 日本人英語学習者の語彙意味発達と、語彙サイズ、深さの関係を調査した。 調査には、日本の中学検定教科書6冊を使用。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. 多義語習得に関する一考察	単	2015年5月6日	神戸英語教育学会年次定例会	日本人英語学習者にとって英語学習を難しくしている要因のひとつと言われる多義語について語の成り立ち、テキスト内使用語、学習者アンケートなど多方面から検証する。
5. Motivational Messages contained in junior high school English textbooks approved in Korea and Japan	共	2013年10月27日	11th Asia TEFL International Conference, Manila Philippines	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓テキストにおける学習者の動機づけに関わるトピックを抽出し比較した。Dorneyによる動機づけの分類を元にテーマをカテゴライズし分析
6. Minority languages in multilingual Japan -Improvement for Language assistance	共	2013年10月05日	Applied Linguistics Association of Korea International conference in Korea	斉藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子 (科研課題番号: 23520706) 東京・三重・広島における多言語理解の調査及び、少数言語使用者への言語支援対策の実態調査報告
7. Exploring the types of vocabulary in English textbooks in Japan	共	2013年07月05日	The Korea Association of Teachers of English 2013 International Conference in Korea	荒尾浩子・木村麻衣子 日本の中学で使用されている英語テキストの中から採択率の高い2種類を選び、使用語彙を調査。出版社、学年ごとの使用語彙のレベル、トークンを分析し、Nation のレンジソフトにかけ使用語彙の重複回数を計算 語彙の傾向を発表
8. Minority languages in Kyoto and Kobe	共	2013年06月11日	International Symposium on Bilingualism in Singapore	斉藤早苗・高垣俊之・河原俊昭・キャロリンライト・木村麻衣子 (科研課題番号: 23520706) 京都・神戸における多言語支援の実態調査及び外国人居住者への聞き取り調査のまとめ
9. Minority Languages in Mie, Hiroshima	共	2012年11月24日	International Academy of Linguistic Law in Chiang Mai	斉藤早苗・高垣俊之・河原俊昭・木村麻衣子 (科研課題番号: 23520706) 三重県及び広島県における外国人居住者の実態調査を通じ、Easy Japanese, Easy Englishの必要性、外国人居住者にやさしい自治体とは何かを問い、新たな提案を行う。
10. A Study of Topics in English Textbooks for Mutual Understanding	共	2012年10月24日	The 3rd English For Business & Technology International Conference 2012 in Brunei	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓における中学英語テキストにおいて異文化理解のためのテーマがどのように取り扱われているかを比較した。比較対象のテキストは日韓それぞれ3社ずつ計18冊である。 2011年度ペナン発表内容の継続
11. How to Support Students in the Development of Learner Autonomy in Learning English: a case study of Japanese university students	共	2011年7月1日	The Korea Association of Teachers of English 2011 International Conference in Korea	荒尾浩子・木村麻衣子 2名の大学生の学習への自律性と英語力向上の相関を約11か月にわたり調査した縦断研究
12. Cultural perspectives expected to be attained by EFL learners	共	2011年11月10日	The 4th Biennial International Conference on the Teaching & Learning of English in Asia in Penang Malaysia	荒尾浩子・木村麻衣子 女性の社会進出、障がい者の活躍など、なぜ英語のテキストで取り上げる必要があるのかというテーマに注目し、日韓中学英語検定教科書から抽出し、その共通点、相違点を分析した。
13. 韓国英語村の可能性—ブサンキャンプのケース—	単	2010年5月1日	神戸英語教育学会 定例会	韓国英語村の実情をブサンの「グローバルビレッジ」の視察を元に報告。日本への導入、応用の可能性についても合わせて言及。
14. A Study of Cultural Factors in Junior High-School English Textbooks Approved in Korea and Japan	共	2010年10月16日	2010 The Pan-Asia Conference Korea TESOL International Conference in Seoul, Korea	荒尾浩子・木村麻衣子 日本と韓国で採択率1・2位の中学校英語教科書を1～3年次それぞれ文化的視点で分析し共通点及び相違点を解説。
15. 韓国中学校英語教科書の特徴：日本との比較を中心に	共	2008年06月29日	中部地区英語教育学会 長野大会	川畑松晴・八田玄二・江利川春雄・室井美稚子・相川真佐夫・磯部ゆかり・木村麻衣子 中部地区英語教育学会アジア英語教科書プロジェクト3年目の発表。日本との比較対象として、ベトナム・カンボジア・中国・台湾・韓国各国の中学英語教科書を横断的に分析。シラバスの形態、教科書の分量、扱われている文法事項等の詳細を各担当者がそれぞれ報告発表。
16. TOEIC入門クラスにおけるアクションリサーチ	単	2008年04月28日	C I N E X 定例会	TOEIC入門クラスにおけるモチベーションをベースにしたアクションリサーチを実施した結果をアクションリサーチの基本技法に基づき段階的に報告 事前テスト・アンケート、事後テスト・アンケートをまとめリサーチの成果を発表
17. 各国比較担当表研究報告	単	2007年10月06日	中部地区英語教育学会 課題別プロジェクト第3回研究会	各国担当表を完成させるため、台湾、ベトナム、バンクラデシュ、韓国対象テキストの質的研究報告会が行われた。 木村は韓国担当のため、韓国中学教科書についての発表を行った。
18. 課題別プロジェクト アジア英語教科書比較	共	2007年06月24日	中部地区英語教育学会 三重大会	川畑松晴・八田玄二・相川真佐夫・江利川春雄・磯部ゆかり・木村麻衣子 中国・ベトナム・台湾・韓国そして日本、それぞれの中学校英語テキストを、各国比較表をもとに調査・分析、その特徴を発表。
19. 韓日英語教育比較	単	2005年10月15日	中部地区英語教育学会 三重支部例会	韓国語を母国語とする韓国人の英語学習方法を探り、効果的かつ日本人学習者にも応用可能な手法について発表した。日本人、韓国人それぞれの英語への

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 効果的なTOEIC指導法に関する一考察 - Motivation strategyの側面から -	単	2001年03月	人文学会	母語転移（発音、書記素含む）についても言及。 TOEICというテストが注目を集めている昨今、大学での英語教育にもTOEICが大きく入りこんできた。ただ単に、高スコアを目指すだけでなく、英語に対する苦手意識を持っている学生を、モチベーションという側面から教室外でも自主的に英語に触れようとするオートノマラーナーへと導く方法はないか、学生へのアンケート結果などとともを考える。
21. InputからOutputへスピーキング導入の一事例報告	単	1999年11月	人文学会	中学・高校では通常リーディング・リスニング等のInputを主体に授業が行われる。そこで培われた力を更に強化する為、大学及び短大ではOutputを中心の発信型に切り替える必要があると考えたが急な変更はあまり有用であると思われず、スピーキング導入の教授法を確立すべく約半年間にわたり学生の協力を得てアンケート調査等を行った結果を報告
22. 英語を主専攻としない学生への英字新聞講読導入に関する一考察 - モチベーションストラテジーの側面から -	単	1999年10月	日本時事英語学会	日本の国際化あるいは英語教育の充実が叫ばれる昨今、英字新聞からの情報をキャッチする力も必要と考え、英語を主専攻としないいわゆる「英語嫌い」の学生を対象にモチベーションの確立から実践への効率的な授業を構成を主にキャロルモデルを元に検証し、教授法を提案した。
23. 多人数クラスにおける効果的英語指導法に関する一考察	単	1999年10月	人文学会	一クラス80名を超える大教室での授業をいかに効率よく実施していくかについての試み。計3クラスの協力を得て、英語に対する意識調査（好き嫌い・資格・希望等）を行いそのひとつひとつの解答への指導法を過去の文献等をもとに求め一年かけて観察した。
24. Man, Woman, Language	単	1994年06月	武庫川女子大学大学院院生会	1993年11月発行の、“Profectus” に投稿した、“English Language & Sex” に引き続き、英語における発話上の性差を考察した。兵庫県下在住の、英語を母国語とするスピーカーを対象にアンケート調査を行い、彼らの言語的性差に対する概念を、男女別の比率で表した。圧倒的に女性側が発話上の不便さを感じているという、興味深い結果がでた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. Is Japan a Homogeneous Society ?	単	2013年12月5日	桑名トーストマスターズクラブ	Is Japan a Homogeneous Society? をテーマに三重県津市における多言語揭示の実情及び外国人居住者に関する詳細データなどを発表
2. 自分を変える話し方	単	2008年3月18日	CINEX 異文化情報ネットワーク研究会 I'NEXUS No.2	「自分を変える話し方」授業について、コミュニケーションの側面から現代学生の特徴を中心に「コラム」としてまとめた報告書。pp. 91-93
3. TOEIC入門クラスの問題点及び解決策の模索	単	2007年3月25日	共通教育レポート 第2号	共通教育科目、「TOEIC入門」について授業のDo's and Don'tsを中心にまとめ、授業時に実施した、事前テスト・事後テストの結果をもとに分析。半期のクラス概要報告 pp. 5-9
4. 共通教育クラスを担当して	単	2006年12月25日	共通教育レポート 第1号	受講生の所属及び学年が多岐にわたる共通教育の授業を担当するにあたり、心得ておくべき項目と今後の課題及びその解決策の提案をまとめたもの。pp. 109-112
5. ユーモアスピーチの実践	単	2004年11月	トーストマスターズインターナショナル Division 76	Toastmasters Club in-house contest 及び、division 76 area contest においてHumours speech. 7分間という限られた時間の中で、いかに聴衆を魅了し、多く笑わせるかを競う。使用言語は英語。divisionにて3位入賞
6. A-1 Entertain the audience by relating a personal experience	単	2001年09月	関西トーストマスターズクラブ	上級者プレゼンマニュアルプロジェクト1の「聴衆を魅了する」をテーマにスピーチを実践。制限時間は10分
7. B-10 Persuade with power to present the talk that persuade the audience to accept your viewpoint.	単	2001年08月	関西トーストマスターズクラブ	初級レベルプレゼンマニュアルプロジェクト10のスピーチ。プレゼンテーション（スピーチ）の目的3つ（聴衆を感動させる、聴衆に新しい情報を与える、聴衆を説得する）のうちのひとつ「説得」を試みるための制限時間10分のプレゼンテーションの実践。
8. B-9 Persuade with Power	単	2001年01月	関西トーストマスターズクラブ	視覚、聴覚、スピーチの内容、すべてから聴衆に訴えかけることを目的に初級マニュアルプロジェクト9のスピーチを実践 制限時間は7分
9. 世界遺産セミナー（マラウイの文化と生活）	単	2000年9月	芦屋国際交流協会	セミナーの逐次通訳
10. ドイツ紀行セミナー	単	2000年7月	芦屋国際交流協会	セミナーの逐次通訳

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
11. B-8 Get Comfortable with Visual Aids	単	2000年09月	関西トーストマスターズクラブ	適切にスピーチに合わせた視覚補助を利用することを目的に、初級マニュアルプロジェクト8スピーチの実践。制限時間は7分
12. B-7 Research Your Topic	単	2000年06月	関西トーストマスターズクラブ	スピーチテーマを裏付ける資料を集めることを目的に初級マニュアルプロジェクト7スピーチを実践 制限時間7分
13. 名塩紙紹介ビデオ	単	1999年5月	西宮国際交流協会	西宮国際交流協会製作の「名塩紙」紹介ビデオ英語版のナレーションを全編担当。
14. B-6 Vocal Variety	単	1999年10月	関西トーストマスターズクラブ	声量、イントネーションなど「声」に注意を払うことを目的に初級マニュアルプロジェクト5スピーチの実践 制限時間7分
15. B-5 Your Body Speaks	単	1999年01月	関西トーストマスターズクラブ	ジェスチャー、顔の表情などノンバーバルな要素に注意を払うことを目的に、初級マニュアルプロジェクト5スピーチを実践 制限時間7分
16. B-4 How to say it	単	1998年06月	関西トーストマスターズクラブ	語彙選択を含め正しい表現で聴衆にメッセージを伝えることを目的に初級マニュアルプロジェクト4スピーチを実践 制限時間7分
17. B-3 Get to the point	単	1997年12月	関西トーストマスターズクラブ	明確な目的を持ち聴衆にアピールすることを目的に初級マニュアルプロジェクト3スピーチの実践 制限時間7分
18. スポケーン市ホスピスボランティアマニュアル	単	1997年11月	西宮国際交流協会	マニュアルの翻訳
19. B-2 Organize your speech	単	1997年08月	関西トーストマスターズクラブ	聴衆が理解しやすい構成を考えることをテーマに初級マニュアルプロジェクト2スピーチの実践 制限時間7分
20. B-1 The Ice Breaker	単	1997年04月	関西トーストマスターズクラブ	聴衆に自分をアピールする。をテーマに初級マニュアルプロジェクト1スピーチの実践 制限時間6分
21. 全米防災対策機構マニュアル	単	1995年	西宮国際交流協会	マニュアルの翻訳
6. 研究費の取得状況				
1. 科学研究費補助金	共	2014年04月01日～2017年03月末日	科学研究費補助金(基盤研究C) 研究分担者	代表者: 齊藤早苗 分担者: 高垣俊之・キャロリンライト・木村麻衣子 「多言語社会日本に向けて: 外国人住民支援の実態把握を背景とした言語支援推進と普及策」
2. 科学研究費補助金	共	2011年04月01日～2014年03月末日	科学研究費補助金(基盤研究C) 研究分担者	代表者: 齊藤早苗 分担者: 河原俊昭・高垣俊之・キャロリンライト・木村麻衣子 「日本におけるマイノリティ言語に関する実態把握と言語支援開発」

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2012年04月～現在	ことばの科学会
2. 2010年10月05日～現在	KOTESOL
3. 2008年4月～現在	神戸英語教育研究会(事務局長: 2010年4月～)
4. 2008年04月～現在	日本アジア英語学会
5. 2007年10月	神戸英語教育学会紀要査読委員
6. 2007年04月～現在	映画英語教育学会
7. 2006年4月～現在	中部地区英語教育学会(2007年4月～2013年3月三重支部会計担当)
8. 2006年04月～現在	社会言語科学会
9. 2006年04月～現在	全国語学教育学会
10. 2001年04月01日～2010年03月31日	日本時事英語学会
11. 1994年04月01日～現在	トーストマスターズインターナショナル
12. 1994年04月～現在	言語文化学会